

## 県外派遣報告書

審判員名	大纏正士	所属	クラブ連盟
大会名	第三回東日本バスケットボール大会		
期間	平成28年5月4日～5月5日		
会場	ALSOK群馬アリーナ		
スケジュール			
期日	内容	場所	
5月4、5日	一般男子、女子、シニア、スーパーシニア担当	ALSOK群馬アリーナ	
実技			
担当試合	期日	5月4日	一般男子
	対戦カード	オール桐生 VS CROSS	主審 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">副審</span>
	相手審判	横山 則夫氏(栃木)	
ミーティング内容		主任 河野氏	
<p>・リードに入った際に、ボールを意識している時間がまだ長い。早くプレーを掴む為にボールへの意識を少なくし、オフボールへの意識を更に向けたほうが良い。またリードにおいて右側でのポストのポジション取りなどのプレーが気になるのであれば、躊躇せずに足を運ぶことが良いか。</p> <p>・トレイルでプレーを確認する際に最も見やすい位置よりも高い位置で見ている事がある為、状況に応じてベストな位置に足を運ぶべきだ。</p>			
担当試合	期日	5月5日	スーパーシニア男子
	対戦カード	群馬クレイジーホース VS 大和クラブ	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">主審</span> 副審
	相手審判	蒲生 壮扶氏(山梨)	
ミーティング内容		主任 なし	
<p>基本的な視野の当て方をしっかりと行い、二人で同じプレーを見すぎないようにアイコンタクトを行い協力していくことを課題とした。オフボールでのプレーは少なく目の前で起きることを素直に判定していくべきであったが、影響を考えすぎてしまい判定に繋がらなかった。</p>			
担当試合	期日	5月5日	スーパーシニア男子
	対戦カード	信濃國スパース VS ブラックパンサー	主審 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">副審</span>
	相手審判	梅田 久生氏(茨城)	
ミーティング内容		主任 森田氏	
<p>この試合において、一般男子であれば影響が少なく取り上げなくても良い触れ合いの可能性があったが、このスーパーシニアというレベルで考えると影響もあると考えられた。アドヴァンテージを考えずに一つ一つ丁寧に取り上げたほうが、各プレイヤーのフラストレーションが高くなり、落ち着いた形になることもあったのではないかと考えられる。</p>			
全体の感想			
<p>大会を通して上級審判員から、リードは早く先行しプレーを待てるようにすること。オフボールへの意識を持つこと。リードにおいて右側で気になったプレーがあれば躊躇せずにまずは見に行ってみることを指摘された。指摘を受けて現場にいち早く足を運び、より良い位置での判定を行う重要性を再認識し、自分のプレーのとらえ方の甘さを再認識しました。</p> <p>また、普段吹くことのないスーパーシニアというカテゴリーを吹くに辺り、一般男子の感覚で基準作りを行っている、スーパーシニアでは影響を受けやすく、ゲーム中にそれを早く感じ取る必要があった。選手の反応を汲み取れず判定に変化を付けられなかった事が反省点でした。</p> <p>上級審判員のゲームを観察するとゲームコントロールの面においては、ワーニングを入れるタイミング等について、どの様に考えているのかをミーティングにて実際の心情を聞きつつ学ぶことが出来ました。</p> <p>末筆ではございますが、この様な機会を与えて下さいました埼玉県クラブバスケットボール連盟の方々をはじめ、お忙しい中準備等を行って下さいました群馬県クラブバスケットボール連盟の方々におかれましては熱く御礼申し上げますと共に、この経験を県内の大会等に活かしていきたいと思っております。</p>			